

## 第2章 地域の概況

### 1. 位置と地勢

本市は京都府の北部、丹後半島に位置し、東西約 35km、南北約 30km の広がりを持ち、面積約 501.84km<sup>2</sup>を有している。沿岸部などは山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に指定され、内陸部には標高 400～600mの山々が連なっている。

表 2-1-1 京丹後市の概要

位置	東西	約 35 km
	南北	約 30 km
	面積	501.84 km <sup>2</sup>
京丹後市役所の位置	東経	135度03分49秒
	北緯	35度37分15秒
	京丹後市峰山町杉谷889番地	

資料:京丹後市姿勢要覧



図 2-1-1 市位置図

### 2. 気象

本市における過去 10 年間の気温、降水量および日照時間を表 2-2-1 に、年平均気温および年降水量の推移を図 2-2-1 に、平成 25 年の気象の状況を表 2-2-2 および図 2-2-2 に示す。本市の気候は、夏の気温が高く、冬の降雪量が多い日本海側気候に属している。なお、平成 25 年の年平均気温は 15.4℃、年間降水量は 1,870mm である。

表 2-2-1 気温、降水量および日照時間

	年平均 気温 (°C)	日最高 気温 (°C)	日最低 気温 (°C)	年降水量 (mm)	年間 日照時間 (時間)
平成16年	16.3	35.1	-4.3	2,113	1,829.9
平成17年	15.2	34.9	-3.4	2,257	1,620.9
平成18年	15.2	34.5	-2.9	1,912	1,598.2
平成19年	15.8	36.1	-0.1	1,957	1,649.8
平成20年	15.3	35.5	-0.9	1,782	1,685.6
平成21年	15.4	34.5	-0.9	1,814	1,444.1
平成22年	15.7	36.9	-2.0	2,124	1,679.4
平成23年	15.3	34.8	-2.8	2,441	1,603.9
平成24年	15.1	35.6	-2.0	2,192	1,580.8
平成25年	15.4	35	-2.4	1,870	1,737.4
平均値	15.5	35.3	-2.2	2,046	1,643.0

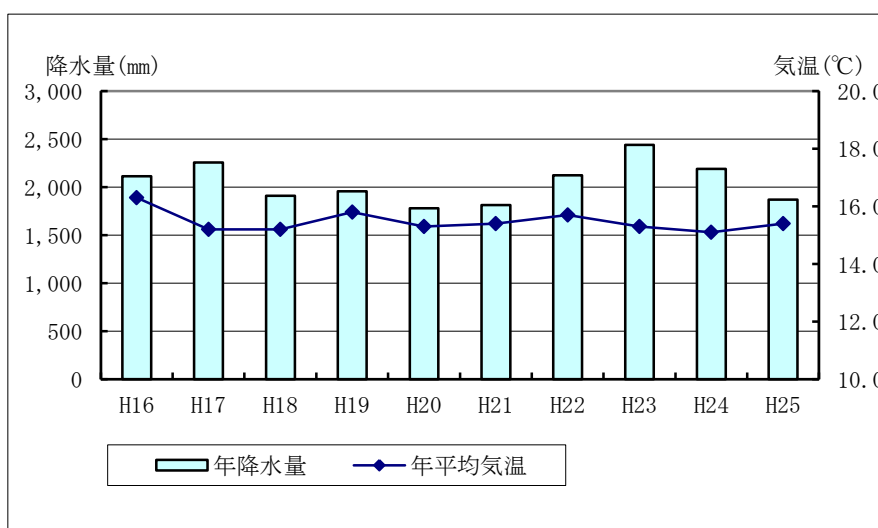


図 2-2-1 年平均気温および年降水量の推移

表 2-2-2 気象の状況（平成 25 年）

	月平均 気温 (°C)	日最高 気温 (°C)	日最低 気温 (°C)	月降水量 (mm)	月間 日照時間 (時間)
1月	4.4	11.2	-1.7	146	55.2
2月	4.5	15.9	-2.4	99	69.1
3月	9.1	20.8	0.9	60	163.1
4月	12	27.1	3.7	85	168.2
5月	17.2	30.3	7.4	30	241.0
6月	21.7	33.5	15.0	88	174.9
7月	26.7	33	20.5	54	190.4
8月	27.7	35	21.3	242	234.7
9月	23.2	31.7	15.3	380	168.3
10月	19.4	30.4	12.4	244	103.6
11月	12.0	20.8	2.3	177	102.0
12月	6.9	15	0.0	268	66.9
通年	15.4	35.0	-2.4	1,870	1,569.1

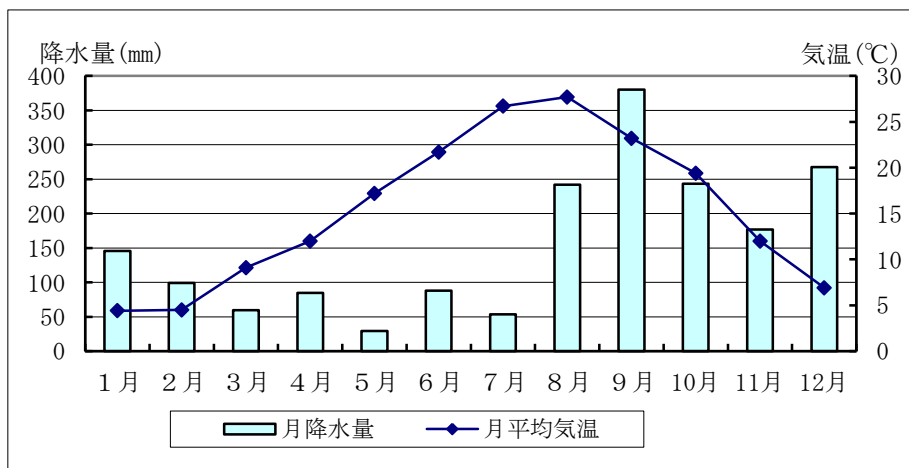


図 2-2-2 気象の状況（平成 25 年）

### 3. 河川

本市域には、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川等やこれらから分岐した支流が山間や市街地を流れ、日本海へ注いでいる。これらは、京都府が管理する 2 級河川と市の管理となる準用河川、さらに多くの普通河川とに区分される。主な河川の位置を図 2-3-1 に示す。



## 4. 沿革

本地域では、リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流が行われてきた。市内からは約 2,000 年前の中国貨幣や日本最古の紀年銘鏡、日本海側最大の前方後円墳などの遺物・遺跡が多く発見されており、独自の経済文化圏を形成し繁栄していたことがうかがわれる。近世には回船業や丹後ちりめんの生産が地域の産業を支え、今日では、新たに機械金属工業・観光産業が地域の発展を担いつつある。

## 5. 人口

### (1)人口推移

本市の人口および世帯数の推移を表 2-5-1 および図 2-5-1 に示す。平成 25 度の人口 58,881 人、世帯数 22,618 世帯となっている。平成 20 年度以降、人口は減少傾向にあるが、世帯数は微増している。

表 2-5-1 住民基本台帳による人口および世帯数の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人口(人)	65,129	64,289	63,521	62,828	62,172	61,592	60,784	60,070	59,633	58,881
世帯数(世帯)	21,522	21,788	21,873	21,967	22,086	22,141	22,178	22,224	22,510	22,618
1世帯当たりの人数(人)	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6

※各年度3月末日現在

資料：京丹後市市民課

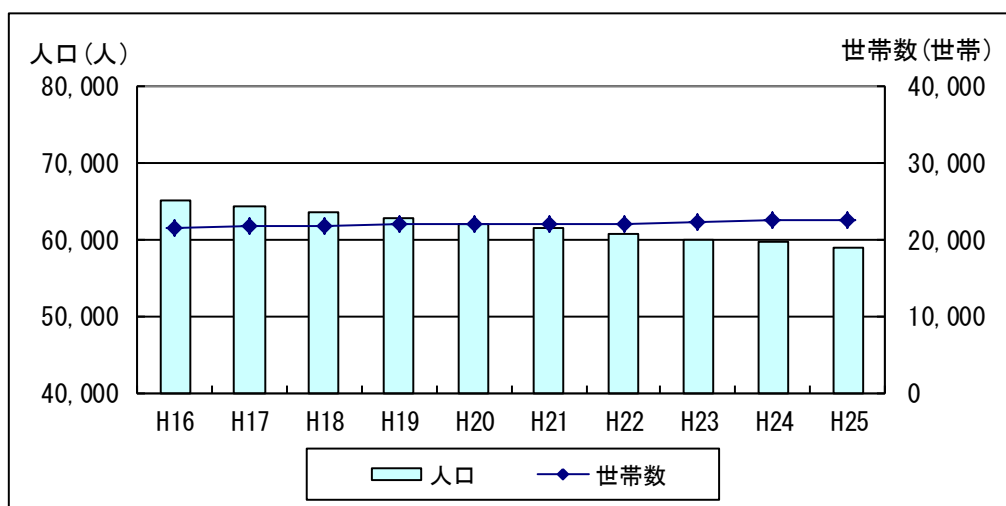


図 2-5-1 人口および世帯数の推移

(2)人口動態

平成19年から平成24年における本市の人口動態(自然動態)を表2-5-2に示す。  
平成19年以降、死亡が出生を上回っており、少子化等による自然減が進んでいる。

表2-5-2 人口動態(自然動態)

単位：人

	自然動態		
	出生	死亡	増減
平成19年	438	819	-381
平成20年	438	758	-320
平成21年	420	744	-324
平成22年	382	782	-400
平成23年	369	771	-402
平成24年	357	832	-475

※各年1月～12月 資料：京都府 保健福祉統計年報

6. 市街地・集落

本市における平成16年度から平成25年度の地区別人口の推移を表2-6-1に示す。平成16年度以降、全地区の人口は減少傾向にある。

表2-6-1 地区別人口の推移

単位：人

区分	総数	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
平成16年度	65,129	13,525	11,048	15,932	6,982	5,953	11,689
平成17年度	64,289	13,411	10,968	15,707	6,844	5,863	11,496
平成18年度	63,521	13,324	10,874	15,536	6,699	5,785	11,303
平成19年度	62,828	13,258	10,904	15,271	6,571	5,689	11,135
平成20年度	62,172	13,211	10,857	15,078	6,414	5,644	10,968
平成21年度	61,592	13,145	10,779	14,860	6,311	5,630	10,867
平成22年度	60,784	12,995	10,702	14,645	6,212	5,540	10,690
平成23年度	60,070	12,893	10,654	14,407	6,077	5,481	10,558
平成24年度	59,633	12,868	10,713	14,291	5,940	5,422	10,399
平成25年度	58,881	12,734	10,668	14,050	5,839	5,337	10,253
H16 - H25	-6,248	-791	-380	-1,882	-1,143	-616	-1,436

※各年度3月末日現在

資料：京丹後市市民課

## 7. 産業

### (1) 産業別人口

本市における産業大分類別就業者数を表 2-7-1 および図 2-7-1 に示す。平成 22 年度現在、本市における産業別就業者割合は、第 3 次産業が 56.4%であり最も多い。

表 2-7-1 産業大分類別就業者数（省略）

単位：人

		平成22年
総	数	29,717
第 1 次 産 業		2,714
第 2 次 産 業		9,215
第 3 次 産 業		16,745
分 類 不 能		1,043
就業者割合	第 1 次産業	9.1%
	第 2 次産業	31.0%
	第 3 次産業	56.4%
	分類不能	3.6%

※10月1日現在

資料：国勢調査（平成22年度）

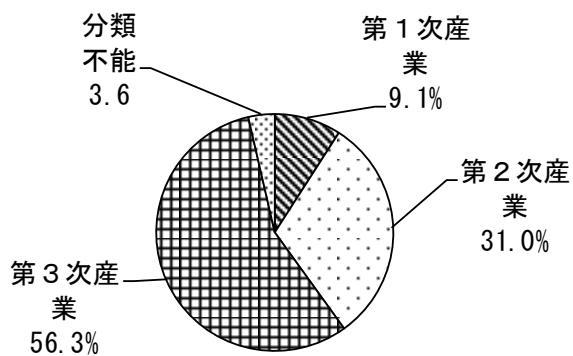


図 2-7-1 産業大分類別就業者割合

(2) 農業

本市における農家数、農家人口及び経営耕地面積の推移を表 2-7-2 に示す。昭和 55 年以降、農家数および農家人口の減少が著しい。

表 2-7-2 農家数、農家人口及び経営耕地面積の推移

	農家数 (戸)	農家人口 (人)	経営耕地面積			
			総数 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)
昭和55年	7,136	31,673	4,394	3,781	522	90
昭和60年	6,563	28,874	4,250	3,670	491	88
平成2年	5,588	24,576	4,070	3,503	475	91
平成7年	5,049	21,714	4,059	3,377	568	114
平成12年	4,526	19,459	3,957	3,264	587	106
平成17年	4,135	11,725	3,593	2,896	585	112
平成22年	3,692	9,385	3,294	2,726	460	108

※各年2月1日現在

資料：農林業センサス

※平成22年の農家人口は、販売農家人口

(3) 林業

本市における森林面積の状況を表 2-7-3 に示す。

表 2-7-3 森林面積の状況

	単位：ha				
	総数	国有林	公有林	私有林	その他林
平成19年	37,248.13	1,184.83	2,419.31	33,640.05	3.94
平成20年	37,248.13	1,184.83	2,419.31	33,640.05	3.94
平成21年	37,244.78	1,184.56	2,419.31	33,636.97	3.94
平成22年	37,238.45	1,184.56	2,419.31	33,630.64	3.94
平成23年	37,221.38	1,184.56	2,453.29	33,579.59	3.94
平成24年	37,262.01	1,184.56	2,445.27	33,628.24	3.94
平成25年	37,233.02	1,155.66	2,462.50	33,610.92	3.94

※各年4月1日現在

資料：京丹後市統計書（平成22年版）

(4) 漁業

丹後半島の沖合は大変良い漁場であり、本市内には 13 の漁港が存在し、海面漁業、養殖業が営まれている。本市における漁業経営体数、海面漁業漁船隻数および動力船合計トン数の状況を表 2-7-4 に示す。

表 2-7-4 漁業経営体数、海面漁業漁船隻数および動力船合計トン数の状況

漁業経営体数 (経営体)	海面漁業漁船隻数 (隻)	動力船合計トン数 (t)
354	349	661

※平成24年12月31日現在

資料：京丹後市統計書（平成25年版）



(5)工業

本市における事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移を表 2-7-5 に示す。  
平成 2 年以降、事業所数及び従業者数は減少している。

表 2-7-5 事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移

	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
平成 2 年	5,193	14,758	11,965,145
平成 7 年	4,226	12,456	9,291,371
平成10年	3,229	10,078	7,748,652
平成12年	2,861	9,482	8,025,997
平成15年	2,405	8,492	7,719,147
平成19年	230	4,953	8,251,463
平成20年	253	5,026	8,042,019
平成21年	211	4,375	6,814,650
平成22年	207	4,417	7,253,086
平成23年	217	4,123	6,479,331

※各年12月31日現在

資料：京丹後市統計書（平成25年版）

※H19年以降は、従業員4人以上の事業所を対象

(6)商業

本市における商店数、従業者数及び年間販売額の推移を表 2-7-6 に示す。商店数、  
従業者数および年間販売額は、平成 6 年以降減少傾向にある。

表 2-7-6 商店数、従業員数および年間販売額の推移（省略）

	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間販売額 (万円)
平成3年	1,460	5,493	13,751,951
平成6年	1,364	5,200	13,244,729
平成9年	1,279	4,447	12,965,946
平成11年	1,244	5,117	12,093,158
平成14年	1,143	5,102	10,755,049
平成16年	1,102	5,108	10,404,962
平成19年	1,015	4,869	8,732,145

※平成3, 6, 11年は7月1日現在

資料：京丹後市統計書（平成25年版）

※平成9, 14, 16, 19年は6月1日現在

## 8. 文化財

本市の主な文化財及び記念物を表 2-8-1 および表 2-8-2 に示す。かつて「丹後王国」として栄えた本市には、日本海側屈指の史跡群や貴重な出土品が多く存在する。

表 2-8-1 主な文化財および記念物(1)

区分	名称	所在地	
国指定	史跡・遺跡	銚子山古墳 第一、第二古墳	網野町網野
		産土山古墳	丹後町竹野
		神明山古墳	丹後町宮
		函石浜遺物包含地	久美浜町湊宮
	指定考古資料	大田南5号墳方格規矩四神鏡	峰山町矢田・弥栄町和田野(町境)
		奈具岡遺跡出土品	弥栄町溝谷
		湯舟坂2号墳出土品	久美浜町須田
	建造物	縁城寺宝篋印塔	峰山町橋木 縁城寺
		本願寺本堂	久美浜町十楽 本願寺
	彫刻	木造千手観音立像	峰山町橋木 縁城寺
		木造薬師如来及び両脇立日光・月光菩薩像	久美浜町円頓寺 円頓寺
	工芸品	石燈籠	大宮町周枳 大宮賣神社
	天然記念物	郷村断層(ごうむらだんそう)	網野町郷・生野内
	国登録	建造物	旧口大野村役場庁舎
稲葉家住宅主屋			久美浜町土居
稲葉家住宅長屋門			久美浜町土居
稲葉家住宅南宝蔵			久美浜町土居
稲葉家住宅北宝蔵			久美浜町土居
府指定	史跡・遺跡	湧田山古墳群	峰山町丹波・矢田
		大宮賣神社境内	大宮町周枳
		黒部銚子山古墳	弥栄町黒部
		遠處遺跡製鉄工房跡	弥栄町木橋
		高山12号墳	丹後町徳光
		湯舟坂2号墳	久美浜町須田
	指定考古資料	三坂神社墳墓群出土品	大宮町口大野
		奈具岡北1号墳出土品	弥栄町溝谷
		大田南2号墳出土品	峰山町矢田・弥栄町和田野(町境)
		銅経筒	久美浜町円頓寺
	建造物	本殿	網野町木津 売布神社
		本殿	久美浜町新町 神谷神社
		参考館(旧久美浜県庁舎玄関棟)	久美浜町新町 神谷神社
		丹後震災記念館	峰山町室
	絵画	絹本着色松井康之像	久美浜町新町 宗雲寺
		絹本着色松井与八郎像	久美浜町湊宮 宝泉寺
		絹本着色当麻曼荼羅図	久美浜町十楽 本願寺
	彫刻	木造阿弥陀如来立像	久美浜町十楽 本願寺
		木造薬師如来及び両脇侍像	丹後町成願寺 成願寺
	工芸品	金銅装笈(附 金銅装笈残闕1個)	峰山町橋木 縁城寺
		石燈籠	弥栄町溝谷 溝谷神社
		熊野十二社権現懸仏	久美浜町円頓寺 円頓寺
		木造扁額	久美浜町西本町 如意寺
	古文書	円頓寺惣門再興勸進状	久美浜町円頓寺 円頓寺
	歴史資料	玄圃霊三閼係資料	久美浜町新町 宗雲寺
		黒部の踊子	弥栄町黒部
	無形民俗	野中の田楽	弥栄町野中
舟木の踊子		弥栄町舟木	

表 2-8-2 主な文化財および記念物(2)

区分	名 称	所在地	
府指定	名勝	庭園	久美浜町新町 宗雲寺
	天然記念物	アベサンショウウオ基準産地	大宮町善王寺
	文化財 環境保全 地区	多久神社文化財環境保全地区	峰山町丹波・矢田
		竹野神社文化財環境保全地区	丹後町宮
神谷神社文化財環境保全地区		久美浜町新町	
府登録	指定考古資料	カジヤ古墳出土品	峰山町杉谷
	建 造 物	本殿	峰山町丹波 多久神社
		興法寺本堂	弥栄町小原 興法寺
		本殿	丹後町宮 竹野神社
		末社齋宮神社本殿	丹後町宮 竹野神社
		中門	丹後町宮 竹野神社
		神門	久美浜町新町 神谷神社
		境内社八幡神社本殿	久美浜町新町 神谷神社
		鳥居	久美浜町新町 神谷神社
		本殿	網野町浅茂川 日吉神社
	絵画	方丈障壁画(長沢芦州筆)	峰山町五箇 慶徳院
		絹本着色釈迦十六善神像	大宮町谷内 岩屋寺
		絹本着色地藏菩薩像	大宮町谷内 岩屋寺
		絹本着色五大尊像	大宮町谷内 岩屋寺
		絹本着色毘沙門天像	大宮町谷内 岩屋寺
		紙本着色齋宮大明神縁起	丹後町宮 竹野神社
		紙本着色等楽寺縁起	丹後町宮 竹野神社
	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	峰山町鱒留 全徳寺
	古文書	本願寺文書	久美浜町十楽 本願寺
	無 形 民 俗	竹野のテンキテンキ	丹後町竹野
		遠下のちいらい踊	丹後町遠下
		大山の刀踊	丹後町大山
		市野々しょうぶ田植	久美浜町市野々
		甲坂の三番叟	久美浜町甲坂
		板谷の三番叟	久美浜町板谷
		河梨の十二灯	久美浜町河梨
		布袋野の三番叟	久美浜町布袋野
		丹波の芝むくり	峰山町丹波
		五箇の三番叟	峰山町五箇
		周枳の三番叟・笹ばやし・神楽	大宮町周枳
	天然記念物	アベサンショウウオ	地域を定めず

## 9. 交通

本市内の交通の状況を図 2-9-1 に示す。

市内の主要道としては、国道 178 号、312 号、482 号が市内を環状に走り、これを補完する形で、府道及び市道が連絡している。

公共交通機関については、京阪神方面への主要なアクセスとなっている北近畿タンゴ鉄道が整備されており、京都・大阪方面へ直通特急等が運行されている。また、バス交通については、「上限 200 円バス」が走り、丹後海陸交通㈱による路線バス運行と久美浜町、丹後町・弥栄町などの一部地域を走る市営バス運行がしている。

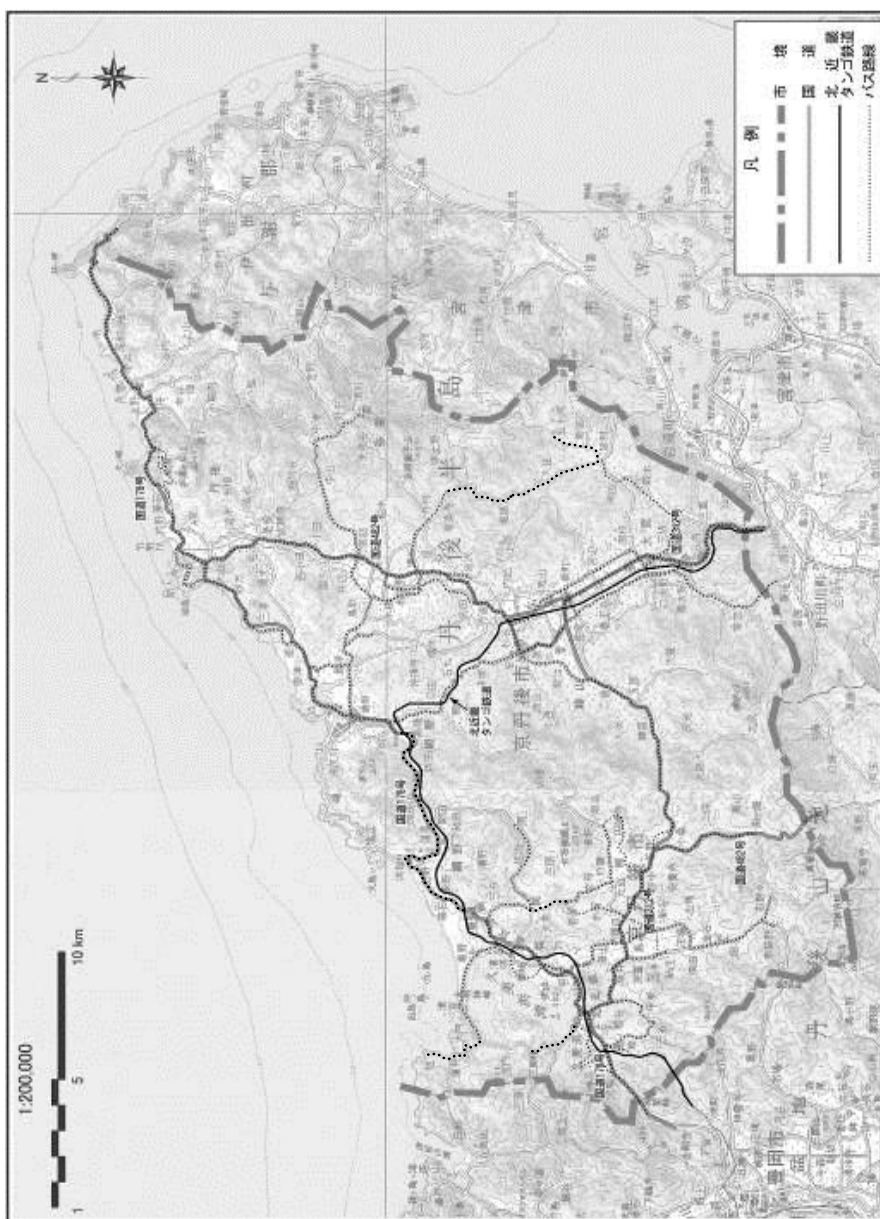


図 2-9-1 交通の状況

## 10. 観光

本市の観光入込客数および観光消費額の推移を表 2-10-1 に示す。観光については、平成 16 年以降、入込客数および観光消費額も減少している。

表 2-10-1 観光入込客数および観光消費額の推移

	入込客数 (人)	消費額 (千円)
平成16年	2,037,753	8,281,407
平成17年	1,930,593	7,751,208
平成18年	1,848,881	7,633,484
平成19年	1,926,625	8,242,518
平成20年	1,824,721	7,758,709
平成21年	1,721,865	6,893,400
平成22年	1,797,496	6,444,951
平成23年	1,752,115	6,289,245
平成24年	1,725,709	6,092,155

資料：京都府観光・商業室

資料：京丹後市統計書（平成25年版）

## 11. 土地利用

### (1) 土地利用状況

本市の土地利用状況（課税の対象にならない土地を除く）を表 2-11-1 に示す。平成 25 年現在、山林の占める割合が最も多く、次いで田、畑の順となっている。

表 2-11-1 土地利用状況

	面積 (千㎡)	割合 (%)
田	39,610	23.7
畑	15,563	9.3
宅地	11,902	7.1
鉱泉地	1	0.0
池沼	42	0.0
山林	90,586	54.3
牧場	3	0.0
原野	6,586	3.9
雑種地	2,679	1.6
総面積	166,972	100.00

※平成25年1月1日現在 資料：京丹後市統計書（平成25年版）

## (2)土地利用計画

総合計画では、市域の土地利用について、高速道路網が連携した広域ネットワークの形成による地域の活性化と、北近畿の中心に位置する京丹後市の立地特性を活かし、人と経済・文化が交流する活力あふれる拠点都市をめざすことが望ましいとしている。図2-11-1に市内都市機能構想図を示す。

### ①市街地ゾーン

北は網野の中心部から峰山の都市拠点を経て、南は国道178号沿いに広がる大宮までの、地域を市街地ゾーン（都市計画区域）とし、産業拠点を活かした職住近接の利便性の高い生活環境を築くとともに、商業の集積と活性化を図り、魅力ある都市空間を創出することが必要である。

### ②森林ゾーン

市街地ゾーンを挟んで東西に広がる山間部を森林ゾーンとし、北近畿最大級のブナ林をはじめとする豊かな自然環境や山並みなどの景観保全に努めるとともに、さまざまな自然学習・体験の場として整備することが望ましい。

### ③田園ゾーン

山間部と海浜部の間に広がる平地や丘陵地帯を田園ゾーンとし、稲作をはじめ、野菜、フルーツといった良質多彩な農産物を活用した農業の振興を図るとともに、滞在・体験型農業などによる交流の場づくりや、憩い、ふれあえる空間づくりを進めるべきである。

### ④海浜ゾーン

海岸線に沿った地域を海浜ゾーンとし、数多くの景勝地や温泉、観光資源など、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークを活かしながら、海の京都構想の実施や日本一の砂浜海岸づくりなどにより、国内外の人々の交流を促進するべきである。

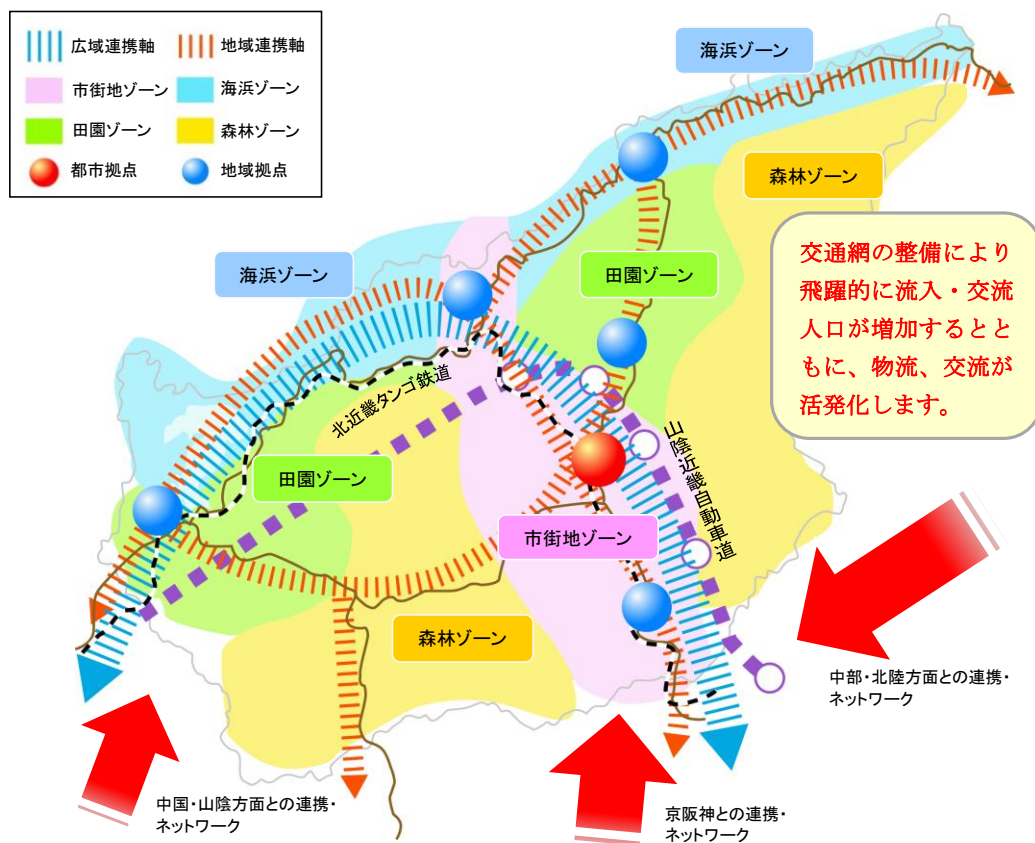


図 2-11-1 市内都市機能構想図

### (3) 都市計画

本市の都市計画区域は、峰山町全域と網野町の一部となっているが、これは合併以前の旧町の都市計画を継承したもので、市街地形成を図る上でアンバランスな問題が生じている。今後、市全体として地域バランスがとれた適正な土地利用の規制・誘導を図るために、都市計画の再編を予定している。都市計画区域面積を表 2-11-2 に示す。

表 2-11-2 都市計画区域面積

都市計画区域名	都市計画区域 (ha)
峰 山	6,745
網 野	1,313

※平成25年4月1日現在

資料：京丹後市統計書（平成25年版）

## 12. 開発・将来計画

### (1) 総合計画における基本理念

#### 1) 基本理念

まちづくりは、市の最高規範として制定された「京丹後市まちづくり基本条例」第4条に定める「まちづくりの基本理念」に沿って、市民の福祉の増進と地域社会の発展を目指し、市民及び市が、自治と協働によって進める必要があります。

### 「自治と協働によって進めるまちづくり」

#### 2) 目標

まちづくり基本条例に掲げる目標を基本に次のように定めます。

- ①歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かしたまち
- ②美しいふるさとと自然環境を守り次代に継承するまち
- ③健やかで生きがいのある暮らしを実現するまち
- ④安全で安心して暮らせるまち
- ⑤お互いに支え合い、助け合うまち
- ⑥次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいただき、いきいきと成長するまち
- ⑦誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまち

#### 3) 将来像

ひと みず みどり 市民総参加で飛躍するまち  
北近畿新時代へ和のちから輝く 京丹後

これからのまちづくりは、経済的な豊かさだけでなく、さまざまな人との結びつきの中で、自らの存在意義の確認や、自己実現を通じて、お互いに支え合い、助け合うまちづくりを進め、市民誰もが幸福を追求できる環境を整えることが重要です。

以上のような考え方をまちづくりの根幹に据え、第1次総合計画の「ひと みず みどり 歴史と文化が織りなす交流のまち」を継承しながら、10年後の将来像を上記に掲げ、市民の参加と協働のもと、まちづくりを推進していく必要があります。

また、「丹後は日本のふるさと」で日本的な心を代表する、誰もが互いを大切にし、他人とも協力し合うことの意味を含め「和」という漢字を使用しています。

#### 4) 目標と基本方針

将来像及びまちづくりの目標の実現に向け、以下の基本方針を設定します。



目標1. 歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かしたまち

基本方針.1 産業基盤の維持・発展を図るとともに京丹後型

基本方針.2 京丹後ならではの観光・交流で極上のふるさとをつくります。

目標2. 美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまち

基本方針.3 次世代エネルギーを活かし、環境未来都市をつくります

目標3. 健やかで生きがいのある暮らしを実現するまち

基本方針.4 生涯現役で活躍する健康長寿社会を形成します

目標4. 安全で安心して暮らせるまち

基本方針.5 災害に強く、安心して暮らせるまちをつくります

基本方針.6 地域生活に活力を生む社会基盤を着実に整備します

目標5. お互いに支え合い、助け合うまち

基本方針.7 支え合い、助け合う福祉のまちづくりを推進します

基本方針.8 参加と協働でいきいきと活躍できる環境を築きます

目標6. 次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいだき、いきいきと成長するまち

基本方針.9 夢と希望をもって、未来に飛躍する人づくりを進めます

目標7. 誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまち

基本方針.10 「幸福」を中心軸に据え総合計画の実現に向けた行財政運営